



# Y ICHITOKU

川越市立特別支援学校 学校だより  
学校教育目標『ひとりだちする生徒』

令和7年11月7日発行 第7号  
TEL049-222-2753 Fax049-229-1231

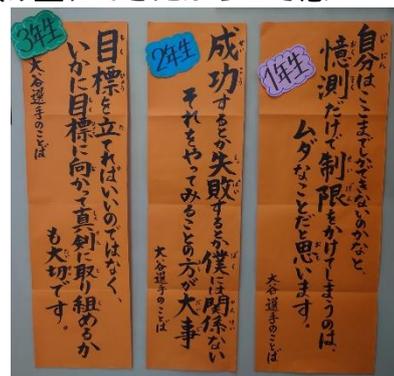
## 「現場実習」を終えた生徒たちの成長

校長 肥留間 智子

ついこの間まで、身体を動かすと汗をかいていたような気がしますが、最近の朝や夕方は少し肌寒い気候になってきました。インフルエンザなどの感染症にかかる人も増えているようで、公共交通機関を利用して登下校している生徒たちの健康管理も気になるところです。就労準備性ピラミッドでも「健康管理」は、一番下の大きな土台になっています。日頃から病気にかかりにくい丈夫な身体作りが必要です。学校と家庭が協力して丈夫な身体づくりを行っていきたいと思います。

さて、10月は全校生徒が、産業現場等における現場実習に行ってきました。初めて実習に行った1年生に、「今回の実習を一言でいうとどんな感想ですか」と聞くと、「楽しかった」「面白かった」「勉強になった」と前向きな言葉が返ってきました。緊張したと思いますが、「ひとりだち」に向けての収穫は大きかったようです。2年生は、「体調管理に気をつける」「相手の目を見て話す」「表情、態度に気をつける」「気持ちの切り替えをする」など、いくつかの実習を積み重ねてきたからこそ感じる基礎基本の大切さに気付き、毎日の生活の中でも修正していききたいという強い気持ちを感じました。3年生は、卒業後の就労を見据えながら自分の課題と向き合い、「必要なことを抽出したメモの取り方をしたい」「わからないときには『時間を下さい』と言いたい」「コミュニケーション能力を高めるために一日3回話しかけていきたい」「感情のコントロールができるように日々トレーニングしたい」など、具体的でより細かい視点で自分自身を振り返り自分の課題を改善、克服しようという姿勢が見え、さすがだなと感じました。

本校の進路指導では、実習の前後に必ず校長への報告をすることになっています。校長として生徒一人一人と実習についての会話をすることは、短い時間ではありますが直接話ができ、とても楽しい時間です。



事前学習で紹介した大谷選手の言葉

## ★10/30 講話朝会 (一部抜粋)

10月27日(月)～11月9日(日)までは、読書週間です。今日は、「生き物が大人になるまで」(稲垣栄洋 著)という本を紹介します。この本には、様々な生き物の子育てや生き方などが書いてあります。いくつか紹介します。

…ハサミムシの子育て。ハサミムシの母親は、石の下などで卵を産み、卵がかえるまで産んだ卵に覆いかぶさるようにして卵を守り続けます。ハサミムシは肉食で、ふ化したばかりの幼虫は獲物を取ることができないので、母親の身体を食べ始めます。母親を食べつくしてエサがなくなると子どもたちは旅立っていきます。

キツネの子育て。狩りの仕方を教えると父親はエサを運ぶのをやめてしまいます。こうして子どもたちの自立を促すのです。近くにあらかじめエサを隠しておき、子どもたちが自分で探せるようにすることもあるようです。巣立ちのときになると親ギツネは、子どもを激しく威嚇し攻撃するので、子どもたちはあきらめたかのように親元を離れていきます。

オナモミの実の中には、すぐに芽を出すせつちちな種子となかなか芽を出さないのんびりとした性格の種子の性格の異なる種子を二つ持っています。どちらがより優れているのでしょうか。そんなことはわかりません。種子に個性を持たせ、それがオナモミの戦略なのです。成長が早い子どもと成長がゆっくりな子どもがいます。身体の大きい人と体の小さい人がいます。果たしてどちらが良いのでしょうか。オナモミの答えは決まっています。どちらが良いかは決められない、どちらもあることがよいのです。

大人になってもできなくて悔しい気持ちになることがあります。しかし、それは成長したいと思っている証拠です。心の底から楽しいと思える「好奇心」や心の底からやってみたいと思える「挑戦心」や「向上心」が成長する力なのです。…

様々な動物や植物の「生きる」を知ると、人間である自分の生き方や物事の考え方を見直すきっかけになりました。本を読んで、知らなかったことを知るといった経験を積んで、皆さんも「ひとりだち」に生かしてほしいです。